

松本市立病院経営評価委員会の評価

1 医療機能等指標の達成状況に対する意見

- (1) 入院を増やし単価を上げるということを考えると、手術と分娩件数の改善が必要。また紹介率、逆紹介率の目標値はもっと高く考えるべきである。
- (2) 病床数を199床にして在宅療養支援病院にしたことは評価できるが、急性期は総花的で何でも診るということではなく病床機能で勝負すべきである。
- (3) 医業収益確保を第一命題にしなければならない。健康福祉講座や健診はうまくできている。健康福祉講座の際に市立病院の役割や地域医療機関との使い分け等の住民教育を、「地域包括ケアのモデル町会」となっている波田地区3町会の取組みに倣って、中長期的に地区内の全町会に広めたい。
- (4) 訪問型のサービスは、収入に対して職員給与費が高いが、このサービスを提供することにより紹介率、逆紹介率の上昇に繋がるはずである。地域や地域の医療機関との関わりが後々のことに繋がっていく。

2 経営指標に係る数値目標の達成状況に対する意見

- (1) 給与費比率63%は非常に高い。ここは真剣にやらないと経営改善はできない。公立病院がうまく運営できていないのが給与費であり、平均値と比較し大きく外れているところは整理する必要がある。
- (2) 給与費を抑えていくとあるが人材の流出に繋がらないようにしなければならない。医療従事者と事務従事者を明確に分けて事務はICT等を活用し抑制し、医療に従事する職種は付随業務を減らし医療行為に特化していく必要がある。数値だけを見て抑制することはやめた方がよい。
- (3) 縮小すべきところは縮小しなければならない。意識して整理することは必要である。
- (4) 病院経営で不採算医療を担う必要のある部門においては、一般会計から繰入れしてもおかしくない。

3 その他全般に関する意見

- (1) 改革プランは、32年度が最終年度。経常収支比率の改善、患者数増、救急受入件数増、手術件数増など改革は多岐にわたるが全部は無理であり、地域の実情に合わせてどこに力を入れるかを考えないとできないことをやっていることになる。
- (2) 目標は達成しないと評価されない。達成可能な目標に戦略的に取り組むことが必要である。
- (3) 病床数が199床になったことで、在宅医療をしていくということは自然な流れだと思うが、在宅医療は診療所の医師が行い、そのバックアップとして地域包括ケア病棟で入院を受け入れるなどの運用をしてほしい。

- (4) 診療時間の繰上げは患者サービスの向上に繋がるのか。繰上げにより医療従事者のモチベーション低下や時間外労働により人件費の増加に繋がらないか。また、地域医療機関との連携強化のため、各診療科医師にも診療所訪問をしてもらうとあるが、医師の負担増に繋がらないか。地域連携室の対応で良いのではないか。
- (5) 職員の意識改革は理念に基づく接遇が大事であり職員同士で確認し合う仕組みが必要である。丁寧な接遇を心掛けてほしい。
- (6) 今後設置予定のモニター会議については、病院が直接地域住民や利用者に聞くのではなく、第三者の方が利害関係なく意見が聞けるのではないか。
- (7) 人員削減は課題ではあるが、職員がやりがいを持てる病院にしてほしい。
- (8) 病床数が215床から199床になっているので、現在の改革プランは変更があるということで良いか。方向性が変わるので改革プランに反映してほしい。